

総務文教常任委員会審査概要報告書

委員長 高岡 宏和

- I 開催年月日 令和 3 年 12 月 21 日（火）
- II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 10 時 58 分
- III 出席委員等 [出席委員] ◎高岡 宏和 ○山口 泰祐 田中 勝文
出町 譲 中村 清志 中川加津代
坂林 永喜 上田 武 曾田 康司
(◎…委員長 ○…副委員長)
- [議長] ※坂林 永喜議長は委員として出席
- [副議長] 本田 利麻
- [説明員] 別紙名簿のとおり
- [委員外議員] 梅島 清香 熊木 義城 嶋川 武秀
埜田 悦子
- [事務局職員] 西本 幸夫 池守 凡子 吉本 昌史
- [傍聴者] なし

IV 審査の概要

1 付託議案について

- 議案第 123 号 令和 3 年度高岡市一般会計補正予算（第 8 号）のうち本委員会所管分
- 議案第 128 号 高岡市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例
の一部を改正する条例
- 議案第 131 号 高岡市公民館条例の一部を改正する条例
- 議案第 140 号 指定管理者の指定について
（高岡市文化芸能館）
- 議案第 141 号 指定管理者の指定について
（高岡市生涯学習センター（ホール施設を除く。））
- 議案第 142 号 指定管理者の指定について
（高岡市生涯学習センター（ホール施設））
- 議案第 143 号 指定管理者の指定について
（高岡市立博物館）
- 議案第 144 号 指定管理者の指定について
（高岡市万葉歴史館）

- 議案第 145 号 指定管理者の指定について
(高岡市美術館)
- 議案第 146 号 指定管理者の指定について
(ミュゼふくおかカメラ館)
- 議案第 147 号 指定管理者の指定について
(高岡市民体育館)
(高岡市営弓道場)
- 議案第 148 号 指定管理者の指定について
(高岡市営城光寺野球場)
(高岡市営城光寺陸上競技場)
- 議案第 149 号 指定管理者の指定について
(高岡市営長慶寺室内プール)
(高岡市営スポーツ・レクリエーションホーム)
- 議案第 150 号 指定管理者の指定について
(高岡市万葉スポーツセンター)
- 議案第 151 号 指定管理者の指定について
(高岡市テニスコート)
(高岡市サッカー・ラグビー場)
(高岡市イベント会場)
- 議案第 152 号 指定管理者の指定について
(高岡市竹平記念体育館)
- 議案第 153 号 指定管理者の指定について
(高岡市伏木北前船資料館)
- 議案第 154 号 指定管理者の指定について
(高岡市伏木気象資料館)

及び

- 報告第 4 号 専決処分の報告について
(高岡市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例)
「高岡市職員の給与に関する条例の一部改正」
「高岡市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正」
「高岡市特別職の職員で常勤のものの給与に関する条例の一部改正」
「高岡市上下水道事業管理者の給与等に関する条例の一部改正」

以上、予算議案 1 件、条例議案 2 件、その他議案 15 件及び報告 1 件の計 19 件について、審査の結果、全会一致で、いずれも原案のとおり可決すべきものと決した。

〈 審査の過程における質疑は次のとおり。 〉

(以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示)

【議案第 123 号のうち、高岡ブランド発信事業費について】

- 富山市については、他の自治体にふるさと納税をした市民が受けた個人市民税の控除額の合計が、市に寄せられたふるさと納税の額を上回っており、収支が赤字となっている旨の報道があった。本市の状況は。
- △ 過去5年間の収支実績は、平成28年度はマイナス2,716万5,000円、29年度はマイナス4,342万6,000円、30年度はマイナス6,713万5,000円、その後はプラスに転じ、令和元年度が4,815万5,000円、2年度が1億6,744万2,000円となっている。
- 収支がプラスに転じた要因について、どう捉えているのか。
- △ 返礼品等の充実等が大きな理由として挙げられると考えている。また、ふるさと納税のPRに努めた結果であるとも考えている。
- 返礼品や国からの補填を加味した場合の実績は。
- △ 寄付金額から寄付控除額を差し引いた額に、返礼品等の経費として支出する額と寄付控除による減収分に対する補填として普通交付税で受け入れる額を加味すると、当初からプラスである。平成28年度は1,100万6,000円、29年度は1,173万9,000円、30年度は1,008万2,000円、令和元年度は7,820万7,000円、2年度は1億3,903万3,000円となっている。
- このたび委託料を増額することとなるが、令和3年度の決算状況について収入の見通しは。
- △ 委託料として約1億7,000万円を増額するが、これは寄付の実績が令和2年度の同時期までと比べ、おおよそ1.5倍で推移していることを踏まえたものである。決算状況としては5億円程度の収入を見込んでいるが、今後の推移を見守っていきたい。

【議案第 123 号のうち、職員給与費について】

- 戸籍住民基本台帳費における職員給与費が微増となっている一方で、総務管理費における職員給与費はマイナス約6,000万円、徴税費における職員給与費はマイナス約2,000万円などとなっている。これらは今般のコロナ等による担当部局の労働時間に起因するものなのか。
- △ 職員給与費については、予算組みの段階で所属している職員数をもとに予算化している。実際の職員配置は人事異動等により4月になってから確定となるため、それらも含め、このたびの補正予算に盛り込んで整理をしている。職員給与費としては、総じて約2億4,200万円の減となっている。

2 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔市長政策部〕

- 。新高岡駅からの二次交通「高速バス」の利用促進について

〈 委員から次の質疑があった。 〉

(以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示)

【高速バスの乗車料金に対する補助について】

- 本事業は、新高岡駅で降りた客が高速バスで飛騨や能登へ行く際の補助制度なのか。
- △ 広域交流拡大あるいは飛越能連携といった切り口で始めた事業であり、民間のバス事業者に協力いただいている。コロナの影響でなかなか乗車いただけないという状況の中で、路線そのものの運行を確保しアフターコロナに備えたいという思いで、補助を実施している。対象者は、特に新幹線利用でいらっしゃった方に限っておらず、地域の方々にもぜひ近隣へお出かけいただきたい。
- 高速バスの利用者について、高岡市民の割合を調査しているのか。
- △ 高山線については、路線を開設してから1年程度しか経っていないこともあり、事業者からの聞き取り等、調査は一部でしか実施していない。
- 飛騨や能登でお金を使う観光客のために本市の税金を投入することに疑問を感じる。この補助制度によって本市にはどのようなメリットがあるのか。
- △ 路線開設の背景としては、高山市への観光客数がかかなり多く、そういった方々が金沢市へ流れているという状況がある。このことを踏まえ、本市にも足を伸ばしていただき、歴史的町並みや自然景観に触れていただくことで、リピーターを増やしたいというねらいがある。また、新高岡駅を起点として飛騨や能登へ周遊ルートができれば、新高岡駅の利用促進にも良い影響があると考えている。現在はコロナ禍にあってバスの減便といった動きがあるが、路線そのものの存続に問題が生じ、今後の交流拡大に向けてマイナスに働くことを危惧しており、この支援を実施しているところである。
- 財政が厳しい折に、新高岡駅で降りた客に市内でお金を使ってもらうことを前提に取り組まないといけない。この施策を打ち出すことで高岡市民が豊かになるのかどうかを、十分に検証いただきたい。
- △ 新高岡駅の利用促進施策をこれまで重ねて実施してきた。新高岡駅の乗降客数がコロナ禍の前までは順調に伸びていた点を踏まえると、これらの施策が総合的に本市への観光客入込にプラスに働いていると考えている。また、これらの施策とあわせ、瑞龍寺をはじめとした本市の歴史文化の魅力発信による相乗効果によって、まちなかでお金を使ってもらう形に繋がればと考えており、今後も施策を進めていきたい。

3 閉会中の継続審査について

本委員会の所管事項について、閉会中も継続して調査する必要があるため、会議規則第104条の規定により、委員長から議長に継続審査を申し出ることとした。

4 その他

- 次回の常任委員会の開催について

令和4年2月7日（月）午後1時に開催することが報告された。

〈 委員から次の質疑等があった。 〉

【城端線・氷見線について】

- 城端線・氷見線のLRT化をなぜ検討しようと思ったのか。
- △ 令和2年1月にJR西日本から、県、沿線4市に対して、人口減少社会が進展する中であって、LRT化が、安全で持続可能な公共交通の実現を通じ、沿線地域の活性化にも資する交通体系ではということで、提案をいただいた。県、沿線4市、JR西日本は、かねてから関係機関及び関係事業者を交え、城端・氷見線活性化推進協議会を組織しており、現在も実施している城端線の増便試行やラッピング列車の運行など、両線の活性化に取り組んできた経過がある。これらの経過を踏まえ、提案に対して検討の場を設けることとなった。
- LRT化は、雪国にふさわしくないと思うが見解は。また、収益や利便性の向上には、駅を増設したり、駅を改修したり、車両を増やし運行本数を増やすことになり、費用がかかるのでは。LRT化の際は、架線の設置等、どのような整備が必要となるのか。
- △ 県、沿線4市、JR西日本からなる城端線・氷見線LRT化検討会が実施した需要予測調査において、LRT化と直通化、高頻度運行を前提とした調査結果では、利用者は2040年度で現況の46%増と見込まれた。一方で、この前提条件を物理的あるいは技術的にクリアするための要件・コストを含めて、実現可能性を検証する必要があるという議論も出ている。今後、検討会においては、LRT化に関する事業費調査等を実施し、その結果を踏まえ、解決すべき課題について議論が進められるものと考えている。
- 城端線・氷見線が通る4市について、現在のそれぞれの路線距離と駅の数。
- △ 駅数は、氷見市が2駅、高岡市が10駅、砺波市が3駅、南砺市が6駅の計21駅ある。市ごとの路線距離については確認が困難であるため、時刻表に示されている区間距離で回答させていただきたい。全延長距離は、氷見線が16.5キロ、城端線が29.9キロである。そのうち氷見市域内の区間は、氷見駅から島尾駅間で3キロ、高岡市域内は概ね島尾駅から戸出駅間で20.8キロ、砺波市域内は概ね戸出駅から高儀駅で9.7キロ、南砺市域内は概ね高儀駅から城端駅で12.9キロである。
- 現在の運行状況と運行車両数は。
- △ 運行間隔は概ね1時間に1本程度である。特に朝の時間帯においては通学、通勤の利用があるため30分から40分間隔での運行、17時台から20時台には40分から50分間隔での運行を行っている。また、利用の少ない時間帯である昼から2時頃にかけては最大1時間40分の運行間隔となっている。車両数については、JR西日本から、運行に関わるため情報提供を差し控えたいとのことであった。
- 城端線・氷見線のLRT化の調査研究にしっかりと取り組み、見える化にも努め

ていただきたい。また、市民の意向もしっかりと受けとめる、あるいは聞くことが大事であり、冷静に検討していただきたい。(要望)

【あいの風とやま鉄道について】

- 平成 24 年の開設にあたり本市が負担した費用は。
- △ あいの風とやま鉄道への出資金は 1 億 9,500 万円である。
- 平成 24 年以降の本市の費用負担は。
- △ 市は県に対して開業から 10 年間で 3 億 9,600 万円の経営安定基金を拠出することとなっている。なお、平成 25 年度から今年度までの拠出額は、2 億 2,640 万円となっている。
- やぶなみ駅の総事業費は。
- △ 事業主体であるあいの風とやま鉄道分に自由通路の整備など市の分を加えた駅の総事業費は約 8 億円である。

【万葉線について】

- 万葉線株式会社への年間補助額は。
- △ 車両検査、大型事業等でバラつきがあるものの、安全対策など毎年恒常的なものとしては、約 7,000 万円前後で推移している。ただし、平成 30 年以降は、米島口の変電所や設備の改修、庄川橋梁の補修などの大規模な修繕改修が加わっており、さらには新型コロナウイルス感染対策への支援もあり、近年は増加している。
- 現在の運行状況と運行車両数は。
- △ 運行間隔については 15 分間隔である。車両数については、低床車両の 6 編成と旧型車両の 5 編成の計 11 編成を保有しており、常時 7 編成での運行を行っている。
- 現時点でのアイトラム 1 台あたりの購入価格は。
- △ 車両は受注生産であり、発注時の物価や仕様等によって価格が大きく変動することから、現時点での価格は回答できないが、直近の平成 21 年 3 月当時に導入したアイトラムの購入価格は約 2 億 5,000 万円だった。

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

総務文教常任委員会 当局説明員（18名）

市長政策部長 市長政策部政策監	鶴谷 俊幸	教育長	近藤 智久
情報政策課長	布橋 みちる	教育次長 参事	杉森 芳昭
文化創造課長	寺井 知恵	教育次長 学校教育課長・教育改革推進室長	杉山 智充
総合交通課長	今方 順哉	教育総務課長	中保 哲憲
		生涯学習・スポーツ課長 東京オリンピック・パラリンピック推進室長	上田 浩樹
総務部長 選挙管理委員会事務局長	梅崎 幸弘	文化財保護活用課長	大野 洋靖
総務部理事 次長	戸田 龍太郎		
総務部次長 参事	長久 洋樹		
総務課長	長谷川 聡		
人事課長	新保 貴之		
人事課 経営管理室長	津幡 佳成		
財政課長	村上 彰		
管財契約課長	澤田 剛章		